

復興庁 復興推進委員会 第32回

福島の現状と課題 ポスト復興を見据えて

2019/11/07

立命館大学衣笠総合研究機構准教授

開沼博

福島の今

1. 避難による県外への人口流出（現在）
3. 1万人/185万人
2. コメの作付面積（2010年比）
2018：80.5% 2011-2017：79.9%=>82.1%=>84.6%=>84.6%=>81.4%=>79.7%=>79.4%
3. コメの全量全袋検査で法定基準値超え（年間約1000万袋中）
2012-2015：71袋=>28袋=>2袋=>0袋 以後、現在まで0袋継続
4. 福島県内漁港への漁獲高（属地統計）の回復（2010年を100%とした場合）
2011-2018：19%=>11%=>8%=>14%=>15%=>22%=>17%=>15%
5. 福島県内の漁業経営体の漁獲高（属人統計）の回復（2010年を100%とした場合）
2011-2018：63%=>56%=>57%=>75%=>57%=>60%=>67%=>63%
6. 福島県沖の魚介類検査での基準値超え 2018 9819 0
2015：4/8577（富岡シロメバル3,いわきイシガレイ1）
2011-2018：778/1952=>924/5578=>283/7549=>76/8706=>4/8577=>0/8594=>0/8707=>0/6481
7. 林産物素材生産量（2010年を100%とした場合）
2011-2015：89.4%=>90.9%=>97.7%=>92.1%=>104.0
8. 福島県の産業別就業者割合（2015）
一次産業：6.7%、二次産業：30.6%、三次産業：62.7%
9. 観光客入込み数（2010年を100%とした場合）
2012年：77.7%=>2013年：84.4%=>2014年：82.0% 2015年：87.9%=>2016年：92.2%=>2017年：95.3%
10. 都道府県別の有効求人倍率（就業地別）（2015年2月など）
1位
11. 福島県の合計特殊出生率
2016年：1.59（2013：1.53=>2014：1.58 この年、全国最大の伸び、全国9位・東日本1位）
12. 原発から20キロ地点にある広野町の、「みなし居住率」=（町民居住者+滞在者）/住基人口
140%ほど [令和元年8/31現在（4200人+2623人）/4799人]
13. 双葉郡にできる中間貯蔵施設には東京ドーム何杯分の容積の除染土壌などが運び込まれる？
11杯ほど
14. 福島県の直接死：震災関連死は何人ぐらい？（2019/11/5現在）
直接死：1605人（2016/12）
震災関連死：2279人（2019/3）

福島は今

1. 避難による県外への人口流出（現在）
3. 1万人/185万人
2. コメの作付面積（2010年比）
2018：80.5% 2011-2015：80.5%
3. コメの全量全袋検査で法定基準値超え
2012-2015：71袋=>28袋
4. 福島県内漁港への漁獲高（属地統計）
2011-2018：19%=>11%=>8%
5. 福島県内の漁業経営体の漁獲高（属人）
2011-2018：63%=>56%=>48%
6. 福島県沖の魚介類検査での基準値超え
2015：4/8577（富岡シロメ）
2011-2018：778/195
7. 林産物素材生産量（2010年を100）
2011-2015：89.4%=>90%
8. 福島県の産業別就業者割合（2015）
一次産業：6.7%、二次産業：30%
9. 観光客入込み数（2010年を100）
2012年：77.7%=>2013年
10. 都道府県別の有効求人倍率（就業地別）
1位
11. 福島県の合計特殊出生率
2016年：1.59（2013：1.59）
12. 原発から20キロ地点にある広野町の
140%ほど [令和元年8/31現在（2019/8）]
13. 双葉郡にできる中間貯蔵施設には東京
11杯ほど
14. 福島県の直接死：震災関連死は何人ぐ
直接死：1605人（2016/12）
震災関連死：2279人（2019/3）

▪被災の固定と孤立(1,14)

▪経済的損失(cf「風評」)の継続(2,4,5,7,9)

被害は一次産業＋観光業に集中

復興集中期間後の回復傾向鈍化

＝「踊り場」感

＝風評と産業基盤衰退の相互作用

▪検査作物中の放射性物質(3, 6)

基準値超え無し、ほぼNDへ

しかし伝わっていない

▪ポスト「復興(バブル)」へ(10, 11)

予算縮小

▪避難地域の復興本格化(12, 13)

家族や知人に
福島県産の食べ物を
福島県への旅行を
おすすすめできる？

家族や知人に福島県産の食べ物をおすすめできる？

- 家族、子どもに **35%**
友人、知人に **33.1%**
が放射線が気になるのでためらう！
- 福島県内で聞くと、1 - 2割ぐらいに下がる
- 「気にしない」という人が **53.1%**・**54.9%**、
「積極的に食べる・勧める」という人が **11.9%**・**12.0%**だが・・・

【三菱総合研究所2017年8月実施調査より、以下同じ】

調査期間：2017年8月9日～17日

調査地域（回答数）：東京都（1000サンプル） 福島県（500サンプル）

調査対象：20歳～69歳の男女

調査方法：インターネットアンケート

家族や知人に福島県への旅行をおすすめできる？

- 家族、子どもに 36.9%

友人、知人に 32.7%

が放射線が気になるのでためらう

- 「気にしない」という人が 50.3%・53.9%、「積極的にすすめる」という人が 12.8%・13.4%

- 観光客の数全体は回復傾向にある。ただ、来ている人の中にもためらいがないわけではない

「福島県内の現状を東京都民は正しく理解していると思う」か？

- 東京都民に聞くと「そう思う」「ややそう思う」は **6. 8%**。
- 逆に「そうおもわない」「あまりそうおもわない」は **54. 6%**と「福島の状況を正しく理解できていないなー」という感覚が圧倒的に東京都民にあるということがある。
- マスメディアでも定期的に取り上げられてきたし、いろんな情報がながれてきたが「結局わかんないよね」という感覚ある

「風評被害」 = 経済損失 + デマ・差別

○ 3・11の被害：一次被害 + 二次被害（社会的被害）

一次被害 地震・津波・高齢者等の避難過程の死傷者、家屋・コミュニティの喪失、事業者の営業停止、作物からの放射性物質基準値超え（いわゆる「実害」）

二次被害 避難経験・避難長期化・放射線忌避の心身への影響、「風評被害」

○ これまでの二次被害の具体例

1) 避難経験・避難長期化・放射線忌避の心身への影響

避難継続での心身不調：震災関連死：2000人（地震・津波等直接死約1600人）

相馬・南相馬で避難経験を持つ人の糖尿病が1.6倍

福島で小さな子を育てる母親のうつ傾向、虐待認知件数急増

子供の肥満は一時、全国1位。体力低下

事故直後、放射線の危険性を煽る報道による農漁業従事者の自殺

2) 風評被害

経済損失：一次産業 + 観光業に忌避の固定化（消費者意識から流通構造へ）

デマ・差別：繰り返されるデマ・差別事件、報道被害、いじめ事件

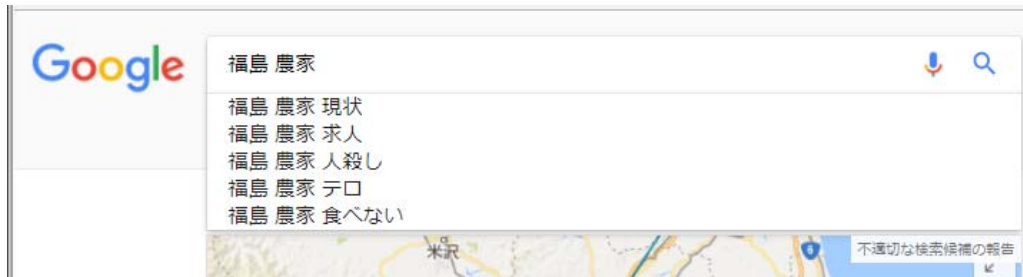
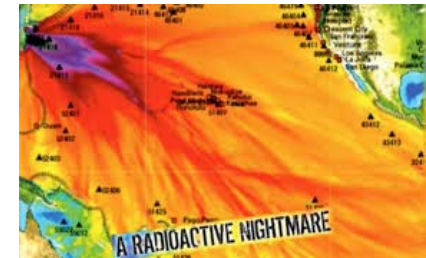
3・11の被害

二次被害

風評被害：経済損失 + デマ・差別

根源にあるもの：福島問題の語りにくさ

- 「福島への見方」ある企業CSR担当者との会話
 - 「リターン見えない」「不謹慎なことしそう」「手離れ悪い」・・・一般的な認識
- 「福島問題」の前に積み上がってきた3つの壁
 - 福島問題の過剰な政治問題化
 - 福島問題の過剰な科学問題化
 - 福島問題のステレオタイプ化&スティグマ（負の烙印）化



- 必要なこと：データと理論&「ローコンテキスト」化（数字・言葉の往復も）

福島問題の見取り図（1）

シンδροーム化した問題

「シンδροーム化」＝原因不確か、一つに定めきれないが共通の症状

1. 日本にとって普遍的な課題
少子高齢化、医療福祉、既存産業の衰退
2. ポスト復興期の課題
土木建設業、医療・福祉サービス等
3. 風評
経済的損失 & デマ・偏見
4. 福島第一原発周辺地域の復興
12市町村に対するイノベーションコースト構想等
産業再生支援、特定復興再生拠点区域
5. 社会的合意形成
廃炉・処理水、中間貯蔵施設、復興支援の終結

福島問題の見取り図 (2)

2階建て構造

- 「福島の問題」とは？

1) 2階建て構造

- 遠くからもよく見える「福島 (県)」
- 近くに行くとよく見える「廃炉の現場」
- 1階が崩れると、2階も崩れる
- 1階が安定すれば、2階は安心

- 混同することによる二次被害の拡大

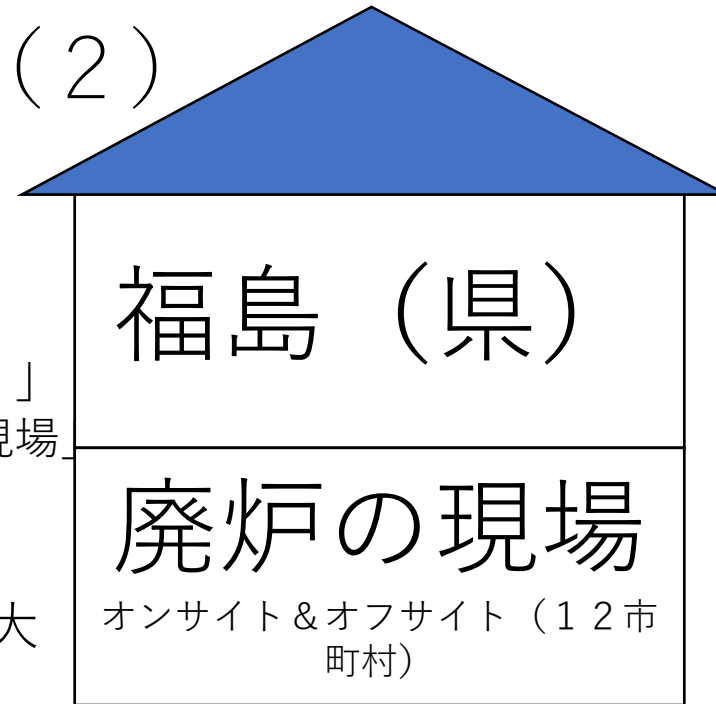
- 「福島は全部汚染されている」

- 対外的な「あの時のイメージ」の固定化

- 2階の日常化 & これから「復興」が終わっていく感
- 1階部分のこれから手を付ける感

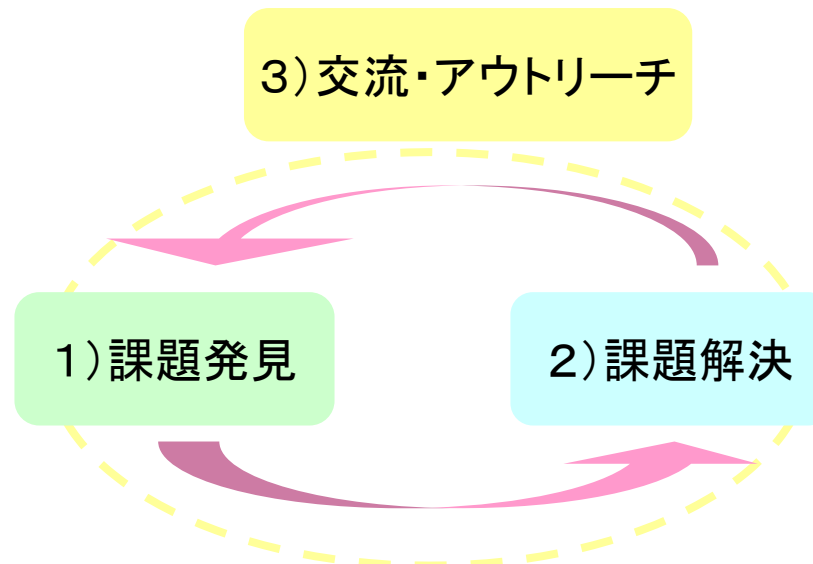
2) 「理科・数学の問題」から「社会・国語の問題」への移行

- 自然科学的な知見の蓄積に比べて、社会科学的な知見が足りない。共有されていない。
- 「原発事故そのもの」以上に「3・11前からあった問題が前面化」



ポスト復興を見据えて：継承・エンドステート

- 2011-2013 混沌期：起こっている事態の記録・収集&公表（cf雑誌でルポ記事公開）
- 2014-2016 整理期：分かってきたことの整理とアウトリーチ
「福島学」= 3・11後の課題発見と解決のサイクルづくり



- 2017-2019 継承準備期：アウトリーチを教育・学びの場づくりにシフト

【いま用意が不十分だがこれから必要なこと】

- 1) 継承すべきことの整理と「3.11を忘れた&知らない人々」へのアプローチの方策
- 2) 残る課題&時間が解決しない課題の解決に向けたエンドステートの議論と構想